

平成 19 年度 臨時環境保護安全専門部会／EPSP

日時：2007 年 9 月 12 日（水）13：30～16：30

場所：JAMSTEC 東京事務所 セミナー室A

出席予定者（敬称略）

環境保護安全専門部会

部会長：松岡俊文

委員：鎌田正博 棚橋学 森田澄人 渡辺俊樹 羽藤正実

CDEX：小林照明、樋口和敬、倉本真一

事務局：増田由衣

欠席予定者(敬称略)

丸山正 長久保定雄 加藤進 古谷昭人

議事次第(案)

- ・ Review

配布資料

資料 1： Predicting Pore Pressure

資料 2： Drilling Planning Procedure

資料 3： 長久保氏からのコメント

当日配布資料：CDEX's Well Management Process

CDEX 掘削準備フロー

CDEX Technical report(冊子)

[議事録]

- 当臨時会議の主旨が説明された。

前回の EPSP 会議での NT02-3 のライザー掘削について不明確であった点についての資料をプロポーネント及び CDEX が 9 月 1 日まで EPSP へ提出し、詳細を当専門部会にてプレゼンし Review することとなった。当会議の結果を EPSP へ報告し、10 月 1 日まで EPSP で Review、そして 10 月 10 日の会議で最終レポートを作成し、10 月 15 日までに完成させる。

- 配付資料が確認された

● CDEX 小林氏 プレゼン

- ・掘削計画、掘削開始前のフロー等準備状況が説明された。
- ・CDEX から配付された冊子(計画書)及び資料は今日欠席された EPSP 委員へも送付される。
- ・NanTroStage2 においても冊子(計画書)は作成されることが伝えられた。
- ・ケーシングデザインは変化するし、データが十分でないため最終版は出せない、ステージ1で得られるデータは浅いところだけなので、深いところは予測しかない。

(以下コメント)

- ・EPSP がレビューするのはプロポーネントが出してくるレポートの段階であり、オペレーター (IO) の責任とするステージでは EPSP は権限を持たない。また、プレゼンされた資料の英語版も EPSP へ配布するので作成してほしい。

松岡：今回の場合は、プロポーネントと IO が密に議論できる状態だが、将来的にもプロポーネントが米国で、日本の「ちきゅう」を使って掘削することになった場合、今のフローで対応可能か？

小林：可能だと思います。なぜならこのフローの中にはプロポーネントが入っていないからです。例えばサイズミックのデータを持っていれば、CDEX の Geophysics と Geologists が断面図を想定することができるからです。

松岡：ところどころの結果をプロポーネントに報告していくということですね。EPSP の立場はプロポーネントとオペレーターのその作業結果を聞かせてもらえば、うまくいくと思う。ステージ2の掘削を考えると、現在はずでに2年前の状況になっている。このような状況を前回の会議で分かっていたら、よかったですと思います。ミスコミュニケーションがあったと思いますが、

鎌田：さっきの話に戻りますが、日本で掘削をやっていたら日本の石油会社からデータがもらえるかもしれないが、米国のプロポーネントとなった場合、どっからデータを持ってくるのでしょうか？

松岡：今回掘るのはスタンダードになる。IODP の観点から見ると今回は特殊というか上手にできている。Industry data が入らなくても耐えられる状況をつくらないと。

鎌田：プロポーネントがそういう意識をもち、自分の足でデータを持ってくるぐらいにすべきだと思います。

倉本：掘削のための安全評価をプロポーネントが持って来られないものは IO がもってくる
ことになっています。

松岡：事前に何が必要かプロポーネントに理解してもらう必要がある。CDEX のやることと
プロポーネントのやることを分けなければいけない。今回は特別なケースとして理解しても
らわないといけない。IO が必要なものをプロポーネントに伝えなければならない。

- Official に報告する場合、ステージ 1 が終わらないとわからないという状況だと EPSP で
は承認できない。そのため、今考えているもの、今回のレポートの基調がアップデートさ
れていくという報告でいいと思います。
- 第 1 ステージを掘る前に大まかなプランがあり、第 1 ステージでフィードバックがあり進ん
でいく。それは IO でやってもらえればいい。EPSP はこのプロセス、目標を承認すればい
い。具体的なプロセスがあればよい。
- ケーシングデザインは承認しようかどうか変化していくのがあたりまえ。その文化を EPSP
が理解し、プロポーネントが理解し、7 インチで仕上げるというプランがあり、万が一 5 イ
ンチになったときプロポーネントがどうするか？計測ツールをつくるべきか、どういうもの
を設計すべきか、そういうのがわかるように経験をつんでいかなければならない。どこまで
できてどこができないということをいろんなコミュニティで審査していく。
- EPSP の会議でのプレゼンはプロポーネントがやる。IO がするわけではない。そういう意
味でプロポーネントが理解している掘削プログラム (IO と話して準備している) という報
告があると EPSP は承認できる。

● CDEX 樋口氏 プレゼン

- Pore Pressure はケーシングデザインと強度を予測するために測定されるが、現段階では、
構造や岩石、その場所の圧力が複雑なため、正確な Pore Pressure を出せない。
- Stage2 のためのデータが少なく 3D が出てきたのが今年の 2 月だった。しかし、location
survey は揃っている。
- データを上手くもらい、何がやりたいのかを明確にするのが重要
- ケーシングの発注は来年の夏頃を予定している。
- ライザー掘削が延期 (再来年) になった。

(コメント)

- EPSP としては、実際のフロー (具体的資料) があればいい。
- Difficulty については言わなくていい。
- 現時点での資料を提出し、EPSP を納得させればいい。

- 最初のプレゼンもプロポーネントが話したほうが良いと思う。本来ならプロポーネントが来て説明するという理解です。
- 配布資料 1 を読むだけでは、専門外の人には理解できない。例えば EATON's3.5 を読むと Mud weight で EATON の係数を決めたという理由が分からない。専門がない人にもわかるように修正する必要がある。

● CDEX 倉本氏より今後の「ちきゅう」運航予定が説明された。

● CDEX 樋口氏と松岡氏により今回のプレゼン資料を修正しなおし Positive な資料にして、今回このようなプレゼンがあり、こういう準備をしているということを EPSP に流し、今月末までに意見をもらい次回で承認をもらうこととなった。次回会議は 10 月 10 日 JAMSTEC 横浜研究所にて開催されることになった。